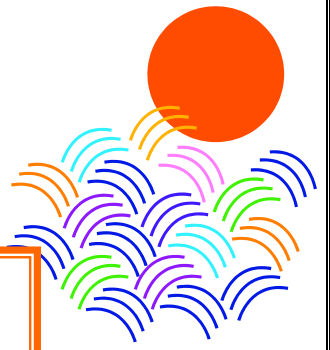




わかば通信

2007年 新春号 岩手県立図書館 児童コーナー



もくじ

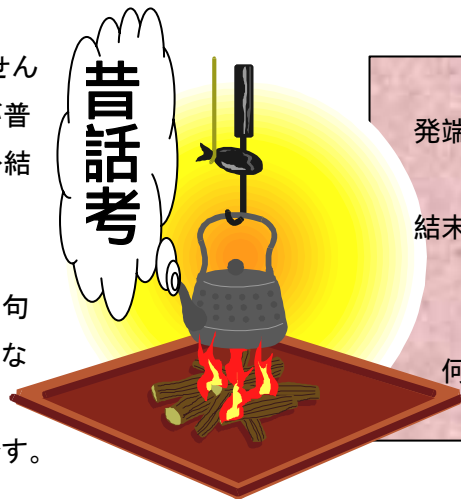
- 1 ... 昔話考
- 2 ... くらべよう!あじわおう!日本・アジアの昔話と民話
- 3 ... 全国公共図書館児童・青少年部門研究集会に参加して in 札幌
- 4 ... 1月～3月の行事予定・編集後記

毎日寒い日が続きます。こんなときは、こたつでのんびり昔話、なんていかがですか？昔話の世界に浸れば、いつのまにか囲炉裏端でお話を聞いている気分になる...かも？

というわけで、今回は昔話特集です。岩手の昔話を中心に紹介しながら、昔話について考えてみたいと思います。ところで、最近よく使われる「民話」とは、「昔話」とどう違うのでしょうか。「民話」とは人々が語り継いできた話の総称で、「昔話」は「伝説」・「世間話」と並んで民話の一分野と位置づけられています。「岩手」という地名や、さんさ踊りの由来と言われている『鬼の手形』のお話は、「伝説」。「むかしむかし」などで始まるのが、「昔話」なのです。

伝説や世間話には決まった形はありませんが、昔話は同じような語り口で始まるのが普通です。そして基本的には、発端→展開→結末の3段階からなっています。

—むかしむかし、あるところに—決まり文句ですね。これを〈発端句〉といいます。聞きなれた言葉は、非現実的な昔話の世界に、聞き手を無理なく引き込む効果があるのです。



岩手の発端句と結末句

発端句	むがし、あつたずもんな こはむかし、あつたどやー
結末句	どんどはれ それきいて、どつとばらい など

何となく

あつたかい感じがしますね

次に、お話が展開していく過程には、よく似た場面を3回繰り返す手法がよく使われます。例えば、『やまなしもぎ』は、病気のお母さんのために、三人の兄弟が一人ずつ山に梨をとりに行くお話です。途中、道端の大きな切り株の上にお婆さんが座っていて、三人に助言を与えます。しかし先に出発した長男と次男は、その助言を忘れてしまったため、沼の主に食べられてしまいました。最後の三男だけが、お婆さんの助言どおりにしたため、梨を採り、そして二人の兄を助けることができたのです。つまり1回目と2回目の失敗は、3回目の成功を強調しているのです。

そして、三人は無事に家に帰り、お母さんも梨を食べてすっかり病気が治りました。—めでたしめでたし—。またお決まりの文句でお話が終わり、聞き手はパッと現実に引き戻されます。この終わりの言葉を〈結末句〉といいます。

このような、独特の語り口は、昔話の大きな魅力です。また、同じお話でも内容が少しずつ違って伝わっていたりします。例に挙げた『やまなしもぎ』も、病気なのはお父さんだったり、お婆さんの助言がまったくの嘘だったり、と様々です。しかしこの「違い」もまた昔話の魅力なのです。

いろいろ読んで(聞いて)比べてみると、楽しいですよ。(^^)それでは、どんどはれ。

参考文献 『昔話入門』小澤俊夫 著 (388/枡)

『昔話と昔話絵本の世界』藤本朝己 著 (Q388/77)

『読みがたり岩手のむかし話』岩手小学校国語教育研究会 編 (JK913/35)

『やまなしもぎ』平野直 再話 (Iホ/低 947)



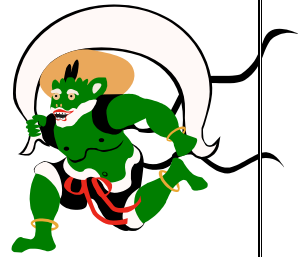


くらべよう! あじわおう!

アジアの昔話・民話

()内の数字は当館請求記号です。

日本のお話と、にてい
るところ、ちがうとこ
ろはあるかな?



『**アジアの昔話 1~4**』(J388/中 25/1~3, J388/中 32) 書庫にあり。スタッフにお問い合わせ下さい。
アジアといっても、とても広く様々な国があります。国が違ってもお互いどこか共通する部分もあるはず。それぞれの国が生んだ文化や風習を感じてみませんか。

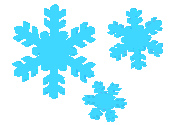
『**日本の昔話 1~5**』(J388/高 57/1~5)
はなさかじいから沖縄の妖精「キジムナー」のお話まで。全 301 話を網羅的に集録。

『**日本・中国・韓国の昔話集**』(J913/二林/1~3)
日本語・韓国語・中国語、すべてのお話が三カ国語で書かれています。語学の勉強にもいかがですか?

チャイルド絵本館 **日本の民話シリーズ 『せんりのくつ』**(Iホ/オ)
書庫にあり。スタッフにお問い合わせ下さい。
山で迷って鬼に出会った三人兄弟でしたが、末っ子の活躍により !?



こどものとも世界昔ばなしの旅シリーズ 『**サルとトラ**』(Iホ/ヤ)
あばれものとはいえ、トラにちょっと同情 !?かわいらしい刺繍絵本です。



『**さんねん峠**』(J388/低 15)
「さんねん峠でころんだならば三年きりしか生きられぬ」峠で転んでしまったおじいさんの運命やいかに!?



こどものとも世界昔ばなしの旅シリーズ
『**こかげにごろり**』
(Iホ/チ)

じぬしからこかげを
買い取ったおひやくし
ょうさんたち。各場面
の動物たちのようにす
も注目。

韓国

韓国の昔話を読んでいると、くすっと笑える、ふっと気持ちが楽になる瞬間があります。

韓国の昔話ではおなじみの「トッケビ」は、天使のように善良でもなければ根っからの悪でもない、どこか憎めないキャラクターのひとつです。どちらが良いか悪いか、はっきりとは言わない発想の自由さが、韓国昔話の魅力のひとつである「ユニークさ」につながっている気がします。

新鮮でありながらどこか親しみを感じる、そんなお隣の国のお話に触れてみてはいかがでしょうか。

かんこく・ちょうせんのみんわシリーズ
『**ひきがえるのおんがえし**』(Iホ/カ)
涙なしでは語れない、ひきがえるとむすめのお話。



『**だまされたトッケビ**』
(J929/ダマ)
「トッケビ」とは韓国語で「おばけ」のこと。トッケビと日本の妖怪は似ている!?



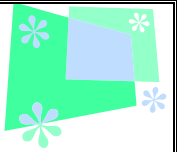
『**くらやみのくからきたサブサリ**』(Iホ/チ)
極彩色と金箔で彩られた美しい絵が、物語の魅力を一っそう引き立てます。



『**韓国昔話(上・下)**』(929/ソジ 1~2)
日本では知られていない昔話を中心に紹介。韓国の昔話をもっともっと知りたい人へ。



全国公共図書館児童・青少年部門研究集会に参加して in 札幌



10月19日から20日までの二日間、『広げよう！つなげよう！子どもと本と明るい未来』という研究主題のもとに、平成18年度全国公共図書館児童・青少年部門研究集会が札幌で行われました。児童コーナーからも二人のスタッフが参加してまいりました。そのなかで話し合われた分科会や講演会での模様を一部ご紹介します。

●基調講演

『子どもは動物と本が大好き～伝えるのは命～』と題して「命を展示する動物園」といわれる、旭山動物園園長の小菅正夫氏の基調講演が行われました。ご本人は子ども時代、本は大嫌い！でも動物は大好き！だったというエピソードなど、ユーモアを交え笑いあり涙ありの楽しい講演となりました。

講演の中で氏が一貫してお話になったことは、命というものはかけがえのないものであり、とても大切なものだということでした。本や、テレビなどの情報も大切だが、実際に動物とふれあうことによって、命を実感することができるというお話では、情報のあふれる時代において、実体験がいかに大事かということに改めて考えさせられました。

「自分の師匠は動物たちである」とおっしゃる氏は、本当に動物を尊敬していて、命の大切さを実感し、それを伝えたいという気持ちにあふれていらっしゃいました。私も図書館員として、本を通して命の大切さを伝えていけたらと感じた貴重な体験でした。



●分科会

第一分科会では「いまどきの子どもの文化事情 本・マンガ・ゲーム」というテーマで、児童クラブ「ホロホロ」主宰 谷地元雄一氏による講演が行われました。

意見交換では、昨今の読書習慣の低下・図書館の利用減少に伴い、どうすれば子ども達を本の世界へ向かわせることができるのかという質問が多く寄せられました。そのような質問に対して氏がおっしゃったのが、「子どもは本を楽しみにしているのではなく、大人が出入りする新鮮さを楽しみにして（本を読む人に会うために）図書館に来るのではないか」ということでした。

「大人が出入りする新鮮さ」という言葉について、幅広い年代の方々が利用する図書館という空間において、様々な世代の人々、つまり大人とかかわりをもつことが、子どもにとって楽しみのひとつである、ということではないでしょうか。

人と本、岩手県立図書館の場合どちらを楽しみにしてきてくれる子どもが多いのでしょうか。いずれにせよ、何らかのきっかけがあって来てくれる子ども達に対し、図書館はどういったかたちで子ども達とつながり、図書館のもつ強み（良さ）を活かして、子ども達に何ができるのでしょうか。司書として自身の在り方について考えさせられました。「子どものおもしろさを大人に伝えたい」、そんなメッセージに溢れた谷地元氏のお話でした。

今も昔も、子どもが変わった気はしない。

時間さえかけられれば、昔と全然変わらない子どもの姿をみることができる。

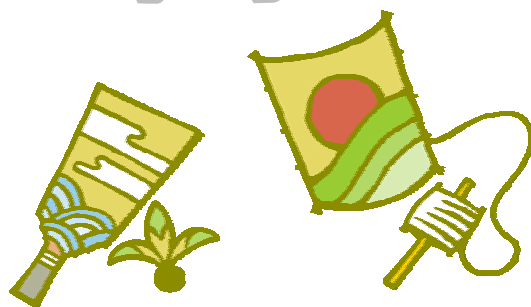
(谷地元氏の言葉より)



1月～3月の行事予定

お話し会

場所 児童コーナー おはなし室
 毎月 第2土曜日 14:30～ 手づくりかみしばいの会
 第3日曜日 11:00～ おはなし すてーしょん
 第4日曜日 14:30～ おはなしわかば



図書館子ども映画会

場所 音と映像コーナー ミニシアター
 毎月 第2・4日曜日 11時～ (10時30分開場)

3月23日から3月31日まで、蔵書点検のため休館します。
 日程が変わりますので、ご確認をお願いします。

	1月	2月	3月
お話し会	13日、21日、28日	10日、18日、25日	10日、11日、18日
図書館子ども映画会	14日、28日	11日、25日	11日、18日

編集後記

また新しい年が始まりました。2006年は、忙しさに追われ、あっというまに過ぎてしまいました。振り返ってみると、4月は開館準備で、5・6月は開館直後の混雑で、毎日があたふたで過ごしていました。(特に土日は、来館者数が児童コーナーだけで毎週1500人を超えるほどでした！)

梅雨のあいだの落ち着きも束の間、夏休みの到来とともに、自由研究の調べ物をしに来た子供たちで、賑やかな毎日に戻りました。(^^)

そして秋は遠足シーズン。新しくなった図書館の見学に、たくさんの学校の子供たちが来てくれました。そういう子供たちが、お父さんやお母さんと一緒に「また来たよ」と言って来てくれたのが、とても嬉しかったです。

12月は、「みんなでクリスマスツリーをかざろう」と題して、手作りのクリスマスツリーと飾りを用意しました。みんな嬉しそうに飾ってくれました。

いつも来てくれる子供たちも次第に増え、子供たちの毎日の中に図書館がなじんできているのかなと感じています。

2007年はより明るく、楽しい児童コーナーにしていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

すてきなツリーができました



「わかば通信」第21号はいかがでしたか？ご意見・ご感想は下記までお寄せください

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通一丁目7番1号 いわて県民情報交流センター[アイーナ]内
 岩手県立図書館「わかば通信」係

TEL: 019-606-1730 FAX: 019-606-1731

ホームページアドレス <http://www.library.pref.iwate.jp/> E-mail アドレス homepage@library.pref.iwate.jp

【 わかば通信 第21号 2007年1月発行 】